

高度で知的な情報処理 システムの研究



知能情報システム工学講座
教授 高木 昇

研究分野

知能情報処理工学、障害補償工学、知識発見工学

研究内容

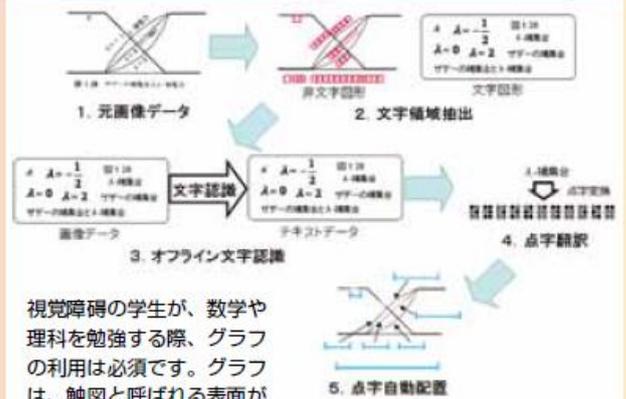
ヒトは目で見えた風景を簡単に理解できますが、コンピュータでヒトが容易に処理していることを模倣させるのは難しいことです。そこで、コンピュータにも知的に情報処理ができるシステム開発の研究を行っています。

私の研究のポイント

視覚障害者が屋外を自立歩行することは困難で、一般には何らかの介助が必要となる場面が多いです。そこで、例えば、デジタルカメラで撮影した画像を解析・理解し、視覚障害者に信号機・横断歩道・看板などの情報を、その場で伝えることが可能になれば、視覚障害者が一人で気楽に出かけることが可能になります。このように、障害者や高齢者が豊かに生活するために支援をする知的な情報処理システムの開発を研究しています。

REPORT リポート

視覚障がい者高等教育のための触図作成支援システム開発



視覚障害の学生が、数学や理科を勉強する際、グラフの利用は必須です。グラフは、触図と呼ばれる表面が凸凹した触覚教材として提供されますが、触図の作成には手間隙がかかります。そこで、教科書のグラフをコンピュータで認識させることで触図作成を支援するシステム開発を現在進めています。